

テーマ1：観光振興／リージョナルレポート

テーマ名	観光振興	地方政府名	江蘇省
取組名称	観光公共サービス体系の最適化を加速させ、トイレ革命を推進		
概要	○時代の変化に合わせ、トイレ革命を推進し、市民や国内外観光客に見た目よく、思いやりのあるトイレを提供することが、江蘇省観光トイレ建設の新たな方向性となっている。 ○江蘇省では政府主導と関連部署の連携による「トイレ革命」推進モデルが形成されている。 ○2018年から、江蘇省「トイレ革命」の新たな三年が本格的に始動。全省で3650基が新設または改増築予定、「多目的トイレ」も1000基を新設する予定である。2020年末までに、全省の観光トイレが「十分な数」「合理的な配置」「効果的な管理」「行き届いたサービス」「衛生的で環境に優しい」「マナーの良いトイレ使用」という目標を実現できるよう、全力で取り組んでいる。		
予算額	(現地通貨) 15億元(2018年から2020年)	(US\$換算)	2.14億米ドル(2018年から2020年)

1. 課題（現在の状況）

- 観光が大衆化した時代、トイレに対する需要は量的にも質的にもさらなる拡大をみせている。「トイレ革命」をいかに推進し、観光公共サービス全体の水準向上、ひいては観光供給側の構造改革の推進につなげるかは、まさに喫緊の課題となっている。
- 長きにわたり、トイレは中国の観光業の発展を妨げるネックであった。外国人観光客が中国の観光環境に対して反応が最も強く、不満が最も多く、同時に仕方がないと諦めていた問題がトイレであった。

2. 目標（将来像）

- 観光トイレの設置と管理モデルを模索し続ける。市場化、社会化されたトイレの設置と管理における持続的な枠組を形成し、江蘇省の観光地における観光トイレの普及レベルをさらに高め、江蘇省全域において観光客の満足度向上を図る。
- 2018年からの三年以内に、江蘇省全省で観光トイレ3650基を新設または改増築予定、「多目的トイレ」も1000基を新設予定。建設投資は15億元近くに上る計画である。
- 2020年末までに、全省の観光トイレが「十分な量」「合理的な配置」「効果的な管理」「行き届いたサービス」「衛生的で環境に優しい」「マナーの良いトイレ使用」という目標を実現できるよう、全力で取り組む。省全域の観光創設機関で、各種観光区と観光客集散センターの公共空間のトイレを全て国家A級観光トイレ基準に到達させる。

3. 取組内容

（概要）

- 江蘇省全体、行政トップから現場実務者までトイレ革命への取り組みを大変重要視しており、省委員会・省政府は「生態文明づくり」の一環として、各地でトイレ革命を全力で推進しようとしている。この指導の下、各地ではそれぞれの責任主体を明確にし、監督指導や審査の強化、賞罰システムの導入、政策によるサポートの整備などに取り組んでいる。これにより、トイレ革命は業界や分野を超えて拡大しており、政府主導と関連部署の連携による「トイレ革命」推進モデルが形成されている。
- 南京市旅遊発展委員会は、都市管理局と合同で『南京市全域トイレ革命実施方案』を研究・策定した。

- 無錫市旅遊局は市財政局、産業弁公室と幾度にもわたる話し合いの末、2017 年に『現代産業発展政策推進に関する意見』で観光公共インフラ投資補助の割合を 5%から 10%に引き上げ、かつ観光トイレ建設管理項目に重点を置いた。
- 蘇州市旅遊局と市容市政管理局は密接な連携を行い、合同で『蘇州市公共トイレ建設と管理規範(試案)』を検討・発表し、市の公共トイレ建設と管理採点表など制度システムを確立した。また、『全市公共トイレ建設管理審査奨励方法』を策定し、トイレ管理専用の審査を定着させた。
- 南通、鎮江などの都市はトイレ革命を政府十大民生事業に挙げている。
- 一方、揚州市旅遊局は都市管理局の力を借り、観光トイレのメンテナンスを特別プロジェクトとして推進している。旧市街区でネックとなっている設備の老朽化や機能の不足などに対し、全数改善を実施。観光地周辺の公共トイレ、公的機関の公共トイレの改善や夜間標識の設置のほか、トイレの配置においても「徒歩 10 分圏内に一か所以上」を目指している。

(うまくいっていること)

- 2017 年 11 月までに、国家旅遊局「全国トイレ建設管理プラットフォーム」システムに登録された、新設または改増築の観光トイレは省内で 3175 基に上っている。総投資額は 12 億元を超え、全てが国家 A 級観光トイレ基準を達成した。
- 江蘇は全国「トイレ革命突出成果賞」を与えられた。
- 南京、無錫、徐州、蘇州、淮安および塩城などの市はいずれも「全国観光トイレ革命先進市」の評価を受けた。
- 南京牛首山、蘇州大陽山、常州春秋淹城、塩城大縦湖、南通濠河など、省内の観光地でモデルトイレができている。見た目もよく、設備が整っていて多機能で、サービスもよく、国家旅遊局の「トイレ革命」賞において、様々な賞を獲得した。

(うまくいっていないこと)

江蘇は「トイレ革命」で輝かしい成果を挙げたものの、全国の先進的な省と比べるとまだ遅れている。それぞれの地区において「トイレ革命」に対する認識が依然として不十分である、「トイレ革命」は主に観光部門によって推進されている、トイレの新設や拡充がまだ少ない、資金の大幅な不足、維持管理とサービス品質はまだ改善の余地があると考えている。

テーマ1：観光振興／リージョナルレポート

テーマ名	観光振興	地方政府名	河南省
取組名称	河南省文化観光業の発展		
概要	中国中原の真ん中に位置し、中華民族 5000 年の歴史を刻む河南省は、豊かな文化と文化財・古跡などの輝かしい観光資源を有する。その上、立地にも恵まれ、空路・高速鉄道・高速道路など交通の便が良いことから、河南省の観光業は力強い発展を遂げてきた。特に 2018 年以降は、文化と観光業の融合により、観光業はさらなる発展のチャンスを迎えている。		
予算額	7.5 億人民元	1.05 億米ドル	

1. 課題(現在の状況)

河南省は黄河中下流域の中原の真ん中に位置する、中華民族の歴史文化の重要な発祥地である。書物に例えれば河南省の歴史のすべて、中国の歴史の半分を記していると言える。河南省には悠久の歴史文化を感じさせる古跡・古都及び人文景観が数多く残る。洛陽市の龍門石窟・白馬寺、安陽市の甲骨文字や殷・商の文化、開封市の清明上河園、登封市の少林寺、焦作市温県陳家溝の太極拳などは国内外で高い認知度を有している。また、地理的に見れば、河南省は中国東部・西部の接点であり、南部・北部を橋渡しする位置にある。省内の地形は山地・丘陵・湖沼・平原など多岐にわたり、黄河や焦作市雲台山の世界ジオパークは国際的にも大きな影響力がある。つまり、河南省の旅は「古」(古文化・古都・古跡)、「河」(黄河)、「拳」(太極拳)、「根」(黄帝の故郷、庶民のルーツ)、「花」(洛陽市の牡丹、開封市の菊)にまとめられる。河南省の多彩な自然景観や、豊かな文化に裏打ちされた人文景観は、国内外の観光客を強く魅了する。さらに、国内外の観光業の急速な発展と、観光を経済の成長分野に据える河南省の政策的支持のもとで、河南省のインバウンドツーリズムは急速に拡大している。

2. 目標(将来像)

観光業の構造転換と高度化は、省共産党委員会・省政府が決定した 12 の産業構造転換・高度化事業の一つである。河南省は省共産党委員会・省政府の構想に従い、経済発展の新たな原動力とすべく、「3 つの工夫」と「5 つの向上」により、文化産業と観光業の融合的発展、ならびに構造転換と高度化を進めている。2019 年の省全体における国内外からの観光客受入数は前年同期比 12%増の延べ 8.93 億人、観光収入総額は同 14%増の 9362 億元を見込んでいる。

3. 取組内容

(概要)

- ①スマート観光・デジタル文化の優先的な推進。文化観光部は河南省を全国全域観光ホログラム情報化実施モデル地域に指定した。このチャンスをとらえ、省・市・県の連携によるスマート観光サービスプラットフォームの構築にいっそう力を入れる。『河南省ダイヤモンド級 - 30 - スマート観光地評価基準』を打ち出し、A 級観光地のスマート化を全面的に推進中。2019 年に 4A 級以上の観光地についてはスマート化の実現、3A 級観光地については一般向けオンラインサービスの提供を目指す。
- ②民宿の発展競争に勝つ。民宿の発展を調整・推進するしくみづくりとして、全面的な民宿資源調査を実施。また民宿の発展をサポートする方針を打ち出し、河南省の民宿基準を策定している。河南省第 1 回国際民宿投資大会の開催に向け準備が進められている。地域全体の観光をさらに発展させるベースとして、農村民宿の発展を急ぐ。地域の特色や風情に満ち、故郷の懐かしさがある逸品民宿を整備する。優れた観光民宿を選別し、ゴールド級・シルバー級の評価を得られるよう育成。30 の重点県において 100 カ所の農村を選び、100 の民宿ブランドを新規運営する。

- ③最適な文化・観光事業を目指す。文化と観光の接点をとらえ、文化創造、文化活動、すぐれた演芸、文化体験、専門家・学者の観光地来訪を促すことで、文化と観光の融合を深めている。文化・観光産業の大型プロジェクトとして、建業・ファイアー・ブラザーズ映画村（第一期）、河南ならではの・演劇の国、朱仙鎮国家文化生態観光モデル区、『黄帝千古情』ショー、陳家溝『印象太極』公演などの実現を急いでいる。さらに、包括的事業のプロモーションにも力を入れており、戦略投資を取り込むことで「紅色旅遊」（*共産主義革命の史跡を訪れる「レッドツーリズム」）のより良い発展品位につなげる。
- ④最高のブランド宣伝を目指す。中国カンフーをメインラインに、中原文化と観光の対外 PR を一元的に行うことで、インバウンドを牽引する。文化・文化財・観光の力を集約し、全国中国大陸遊学連盟常設事務局として、国家漢語国際推進指導小組弁公室、国際観光組織といった公的機関やシートリップ、頭条などの会社との提携強化により、各集客チャネルにおいて既存市場の安定化と新規開拓を進める。観光地・旅行社や競技大会実行委員会などインバウンドに資する団体・機関・個人を対象に、短いスパンでインセンティブを与えるインバウンド奨励政策を打ち出し、インバウンド観光客を着実に増加させる。

（うまくいっていること）

- ①幅広い宣伝によるブランド樹立。中華圏向けには「故郷河南」、国際的には「中国カンフー・故郷河南」「中国の歴史が始まった場所」のイメージブランドを打ち出した。河南観光のブランドイメージは中国中央テレビ局で宣伝されている。高速鉄道の旅を普及させる仕組みとして河南省観光局をトップに、16 の観光地と連携するモデルを構築し、1206 本の列車に「故郷河南」のイメージを重点的に展示した。ドイツ・ルクセンブルクなど 19 の「一帯一路」沿線国及び重点ターゲット市場において、「河南 ～ 中国の歴史が始まった場所」をテーマに各種プロモーション活動を展開した。新規航空路線が開設された国では、オーストラリア人 1 万人の河南省観光計画が達成された。カンフー舞台劇『少林武魂』は数多くの海外公演を行い、国際的なプレゼンスが拡大している。
- ②祝典・イベントを通じたブランド創設。2018 中国（鄭州）国際観光都市市長フォーラム、雲台山国際観光祭、三門峽黄河観光祭など、大型イベントの開催により、世界における河南観光の認知度が高まっている。伝統的な祭日には「新年は故郷で」「春の目覚め・故郷の思い出 ピクニックでお花見を」「端午・ちまき 懐かしの故郷河南」など特色あるイベントを実施し、「故郷河南」の商品化に成功している。国慶節期間中には、省全体の観光関連部門が 120 以上の文化観光イベントを集中的に実施した。
- ③アライアンス結成によるブランド建設。中国カンフーを長城・パンダに次ぐ第 3 の中国観光の目玉とするべく、登封市・禅宗少林、温県陳家溝・太極拳の聖地、濮陽市東北莊・雑技の故郷など、中国カンフーの旅ブランドで提携先の強みを積極的に展開している。
- ④資源統合によるブランド推進。良質な資源を統合することにより、黄河シルクロードの旅、中華古都の旅、中国カンフー体験ツアー、中原山水の旅の 4 つの「中華のルーツ」国際逸品ルートを打ち出した。関連部門と連携した産業融合ブランド認定も進めている。欒川県潭頭鎮・魯山県堯山鎮など 30 の特色ある生態観光モデル鎮、盧氏豫西百草園・淅川県丹江大観苑など 50 のレジャー観光パーク、修武県一斗水村・魯山県想馬河村など 150 の農村観光特色村、雲台山雲上院子・太行大峽谷聽山水舎など 100 の逸品民泊を実施した。河南省修学観光モデル基地の第一期として 55 カ所が認定され、15 の河南省工業観光モデル基地、21 の河南省中医薬健康観光モデル区（基地）がつけられた。

（うまくいっていないこと）

文化と観光の融合的発展というコンセプトを掘り下げ、トップダウン設計を強化する余地はまだあるが、具体的なアプローチはまだはっきりしていない。文化と観光資源のさらなるシステム化、さらなる開発利用、観光コースや商品の差別化に努める必要がある。中国カンフーのブランドをさらに前面に押し出し、認知度を向上させていくことも必要。また、河南省は国際航空路線がまだ不十分である。

テーマ1：観光振興／リージョナルレポート

テーマ名	観光振興	地方政府名	陝西省
取組名称	全域観光のモデル省となり、陝西省の観光業の発展を促進		
概要	○陝西省は観光資源が豊富である。共産党陝西省委員会省政府は観光業を基幹産業の一つとして、文化観光の中心的存在として世界トップクラスにすることを目標としている。 ○2018 年、陝西省の国内外からの受入観光客は延べ 6.3 億人で前年同期比+20.54%、観光業の収入は総額 5994.66 億元で前年同期比+24.54%となった。観光業の付加価値は GDP の 8.61%を占め、域内 GDP に対する総合貢献度は 15.77%となった。 ○陝西省の観光業は、人数・消費ともに観光資源の優位性と釣り合っていない。 ○全域観光のモデル省となり、観光業を推進する。2020 年の受入観光客を延べ 7.3 億人、観光収入の総額を 7700 億元に引き上げ、観光業の付加価値を GDP の 9.2%、域内 GDP に対する総合貢献度 15.8%を目指す。		
予算額	1300 億人民元(年間、社会投資を含む)	185.71 億(U\$換算)	

1. 課題(現在の状況)

- 陝西省内には A 級観光地 454 箇所、省級観光リゾート区 12 箇所、省級観光モデル県 17 箇所、旅行社 845 社、ガイド 21624 人、星つきホテル 340 軒がある。2018 年、陝西省における観光業への投資は 1300 億人民元であった。
- 2018 年、陝西省の国内外からの受入観光客は延べ 6.3 億人で前年同期比+20.54%、観光業の収入は総額 5994.66 億元で前年同期比+24.54%となった。うち、インバウンド観光客は延べ 437.14 万人で前年同期比+13.92%、外国人旅行者による消費は 31.26 億米ドルで前年同期比+15.61%であった。2018 年の統計から試算によると、2017 年の陝西省の観光業における直接付加価値は GDP の 8.41%、総合付加価値 15.48%を占めるものであった。
- 陝西省の観光業は、人数・消費ともに観光資源の優位性と釣り合っていない。豊富な観光資源を有する省としてしかるべき実力が発揮されていない。

2. 目標(将来像)

- 長期目標: 陝西省を文化観光の中心的存在として世界トップクラスにする
- 短期目標: 全域観光のモデル省となり、2020 年までに、15 県(区)を国家全域観光モデル区の基準に到達させる。国内外からの受入観光客数(延べ)、観光収入総額をいずれも「第十二次五ヶ年計画」当時の二倍となる 7.3 億人・7700 億元に引き上げ、観光業の付加価値を GDP の 9.2%、域内 GDP に対する総合貢献度 15.8%を目指す。

3. 取組内容

(概要)

- (一)構想の整理。陝西省の文化と観光を高いレベルで融合させ、高品質に発展させる。
- (二)企画の統一。全域観光の国家モデル省となるべく強力な施策を進め、陝西省文化観光の新境地を切り開く。
- (三)資源の活用。伝統文化の現代的解釈、観光資源の現代化をより鮮明に。
- (四)事業の整理再編。より短いスパンで文化と観光の融合・成長による成果を得られるようにし、「よりよい陝西」へとつなげる。
- (五)市民生活への貢献。農村観光の発展に力を注ぎ、貧困脱出と村おこしを積極的に推し進める。
- (六)ブランドを牽引。「文化陝西」と「陝西から中国を知る」という大きなイメージに対する観光客の認知度、受容度や共感を高める。

(うまくいっていること)

「全域観光」づくりに向けた業務の指導文書として、『全域観光発展の促進に関する実施意見』を公布、『全域観光のモデル省づくり事業にかかる指標システムと要件』および年度業務ポイントを策定した。陝西省としては品質向上、スマート観光、トイレ革命、農村観光など一連の実施案を出し、市・区政府からは 4A 級以上の観光地設立、宿泊業の向上、観光用地、民宿の開発などのイノベーション政策が 20 以上発表された。観光業の発展は、これらの政策により活性化されている。

各種事業を通じて、観光業の発展を継続的にリード。2018 年、省内では 1000 件以上の観光事業が実施されており、投資総額は 1300 億元を超えた。件数・投資総額は前年同期比でそれぞれ 28.9%増・15.5%増となっており、また投資規模においても 50 億元以上の事業が 25 件、百億元以上の事業が 15 件実施されている。

西安城壁-碑林は国家 5A 級観光地に認定され、また国家 4A 級観光地が 10 箇所と省級観光リゾート区 3 箇所が新設された。他にも観光トイレは 1000 基以上、観光集散センターは 20 箇所、オートキャンプ場は 30 箇所が設立され、公共サービスの利便性も向上している。

村おこしと貧困脱出は長期的な効果が見え始めている。基準策定により「観光村」の建設が促進されたことで、観光特色名村 21 箇所、農村観光モデル村 45 箇所が設立された。観光特色小さなまちも 100 箇所弱、「農村特色民宿」も 1000 軒以上と段階的に普及しており、農村リゾート型商品の充実化が続いている。2018 年、陝西省の農村観光は国内外合わせて延べ 2.48 億人の受け入れが見込まれており、前年同期比+22.5%である。観光収入は 348.9 億元で、前年同期比+26.6%である。陝西省の貧困脱出の取り組みと合わせて、貧困人口 9 万人が観光による貧困支援の恩恵を受けている。

(うまくいっていないこと)

一つめは、他地域と比較して観光資源の優位性があるのに対し、観光業の発展水準が釣り合っていないこと。国内外に名を馳せる逸品観光地、観光ルートがまだ少ない。

二つめは、観光業態について。特にリゾート商品がまだ充実しておらず、質・内容ともに高いとは言えない。公共サービスの整備不足や、観光市場の規範化不足もあり、観光ブランドの大イメージがまだ十分に強調されていない。

三つめは、観光とその他産業の融合が浅いこと。「観光+」の融合的発展のアプローチ・範囲・レベルなど、改革が待たれる。

四つめは、陝北・陝南・関中の三大地域において観光の発展がアンバランスであること。観光消費の増加、波及効果、総合的な牽引効果など、大きなポテンシャルが眠ったままになっている。

4. 参考資料

『陝西省全域観光発展計画(2018-2025 年)』

『2018 年陝西省全域観光発展報告』

『陝西省観光産業発展状況に関する報告』

テーマ1：観光振興／リージョナルレポート

テーマ名	観光振興	地方政府名	甘肅省
取組名称	河西回廊における酒文化産業のブランドづくり		
概要	今日の社会で、観光は最も投資価値のある活動だと言われる。観光産業の発展にはクリエイティビティとイノベーションが必要だ。クリエイティブ・ツーリズムは、クリエイティブ産業の発展のもと、旅行者の多様なニーズと社会・経済のたゆまぬ成長によって創生されるものである。 河西回廊一帯は、絵画のような美しい風景だけでなく、美酒にも恵まれている。業界の危機を前に、河西回廊の酒造業、とりわけワイン製造業の構造改革が進められてきた。それにとともに、業界のイメージ向上、文化再生、リブランディング、広報活動の刷新、マーケティングの新モデルづくりなどの面で、酒文化に関するクリエイティブ・ツーリズムの果たすべき役割はより大きなものとなっており、この分野に対する投資は、各地で高まりを見せている。河西回廊における酒文化のクリエイティブ・ツーリズムの発展のため、酒文化ツーリズムの先進国から進んだ経験を学び、手本としたい。		
予算額	(現地通貨)		(US\$換算)

1. 課題(現在の状況)

地域面：現在、甘肅省の河西回廊において酒文化ツーリズムが比較的発展している地域は、いずれも資源に恵まれた地域である。酒文化づくりは、武威市・張掖市・酒泉市・嘉峪関市・敦煌市一帯で多方面に展開されている。

商品開発面：酒文化ツーリズムの面で、酒造業と観光業はすでにリソースや製品の共有・相互活用を始めている。有形資産である酒文化製品の分類を中心に、酒文化製品の具体的な消費価値に基づき、酒文化ならではのテーマ型観光商品の設計も進められている。

開発モデル面：有名な白酒・ワイン製造企業を中心に、企業主導での開発が進められており、酒ブランドとしての訴求力が強い。酒文化ツーリズムへの投資はまだ比較的初期の段階にある。

酒文化ツーリズムの観光商品の提供主体は、生産拠点がメインである。一方で、生産地は十分に集約されておらず、拠点単体レベル・グループレベル・生産地レベルといった視点で見たとき、旅行先としての枠組みを構築できていない。そのため、高度な双方向体験型の酒文化クリエイティブ・ツーリズム商品に乏しい。

2. 目標(将来像)

河西回廊における酒文化のクリエイティブ・ツーリズムの産業化推進におけるポイントは次のとおり。政策支援・法的保障および管理体制の一新を行ったうえで、観光客のニーズ動向や酒文化のクリエイティブ・ツーリズム商品の消費者数および特徴、酒造業と観光業、資本と文化資源の実情などを考慮しながら推進していく。クリエイティブな発想で、酒文化と密接に関連する事柄(観光スポット、特色ある建築物、テーマパーク、自然や文化財などの実景を利用したショー、祝賀イベント、観光地イメージ、観光宣伝材料等)をトータルにデザインし、マーケティングを行っていくことで、酒文化と観光業を高いレベルで一体化させ、「文化の力」を「商品をつくる力」に、「商品をつくる力」をブランディング力へとつなげていく。

3. 取組内容

(概要)

- 一、各レベルの政府および担当部門による、酒文化のクリエイティブ・ツーリズムに対する、正確・総合的な理解が必要である。観光産業の意志決定における科学的な仕組みとして、甘肅省・酒文化ツーリズムの方向性や重点観光スポットに関する位置付けと計画、規制・敷地計画などについて指導・検証・評価などを行う観光専門家諮問委員会を設立し、資源開発の効率化を検討している。また、酒文化資源を観光商品へと昇華させるコストの抑制と、資源保護においてもクリエイティビティを発揮させている。
- 二、甘肅省の酒文化ツーリズムに関する管理体制と連携体制の整備。酒文化ツーリズムの総合的な競争力強化の基礎として、河西回廊酒文化観光開発管理委員会の設立を検討中。

三、酒文化ツーリズムの先進国における進んだ経験からの学び。フランスやオーストラリアのワイン・ツーリズムやドイツのビール・ツーリズムなどを参考にしている。

四、観光ブランド化の模索と実践。酒文化が甘粛省の「顔」となることを目指す。

五、酒文化のクリエイティブ・ツーリズムに携わる人材育成として、専門人材チームを設立。

(うまくいっていないこと)

酒文化のクリエイティブ・ツーリズムは、主に次のような制約を受けている。(一)クリエイティブ環境の欠如。酒文化ツーリズムに関して、全体的な調整を行う機関がないため、管理部門が分散されている。これにより酒文化ツーリズムにおいては、市場ルールに沿った運営環境や秩序づくり、所有者・管理者・経営者の利害調整などが難航しており、プロジェクトの遅延など、酒文化ツーリズムの開発企業は進退きわまった状態に置かれている。(二)統合型マーケティング・コミュニケーションの位置付けがなされていない。まず、酒ブランドと観光ブランドの有機的な協業に制約があること。次に、マーケティング・コミュニケーションの融合が未発達であること。マーケティング・コミュニケーションの効力を保証する仕組みや体制がなく、コンセプト、アプローチともに立ち遅れている。最後に、酒文化の発信と観光客による酒類消費量がうまくリンクしていないこと。観光市場における酒類の展開にはある程度の社会的制約を考える必要がある。(三)クロスオーバーなクリエイティブ人材が極端に少ない。河西回廊における酒文化のクリエイティブ・ツーリズムを成長させるには、酒文化の神髄を理解し、クリエイティブで、他分野での経験があり、観光産業化を進めていける複合型・応用型人材が必要である。

4. 参考資料

甘粛省名酒大全

1、皇台酒

涼州市の皇台酒は、現代の科学技術と伝統的な製造技術を融合し、多くの優れた点を集めて造られた逸品である。独特の味わいがあり、「南に茅台、北に皇台あり」と醸造家から言われるほど、国内外で名を馳せている。

2、莫高ワイン

莫高ワインは甘粛省の有名ワインブランド。そのブランド価値は 62 億 7900 万元で、中国のワインブランドとしては 3 位、アイスワインでは 1 位、甘粛省の酒類としては 1 位を占めている。

3、世紀金徽酒

金徽酒は、秦嶺山脈の南麓、嘉陵江の河畔、世界自然遺産の九寨溝に隣接する甘粛省隴南市徽県で生産される。郷土誌の記載や出土品によれば、その起源は前漢にまでさかのぼる。唐・宋代に生産が盛んになり、明・清代には「西部の酒の故郷」として、この地は広くその名を知られた。

4、九糧液

九糧液は、9 種類の穀物を原料とし、それぞれの味と香りをうまく融合させた、特別な白酒。「酒甕の極上品」と呼ばれ、国内外に名を馳せる。

5、漢武御酒

甘粛省の著名商標である漢武御酒。透明で清らかに澄み、混じりけのない香りで、口に含むと柔らかく、さまざまな味が調和し、独特の味わいがある。

テーマ1：観光振興／リージョナルレポート

テーマ名	観光振興	地方政府名	成都市
取組名称	天府緑道 天府の国・四川の緑道建設		
概要	成都市は総面積約 14334km²。現在計画中の「天府緑道」は全長 16930km で、以下の三種類に分けられる。 ● 地域間緑化道：市内の生態資源と山・水資源の配置計画にもとづく幹線緑道。成都市管轄下の都市と都市をつなぐ。長さ 1920km。 ● 都市部緑道：各都市の内部で網状になっており、地域間緑化道とつながる。長さ 5380km。 ● コミュニティ緑道：コミュニティ内の幼稚園、衛生サービスセンター、文化活動センター、スポーツ施設、高齢者介護施設等などをつなぎ、都市部緑道とつながる。長さ 9630km。 このプロジェクトは魅力あふれる地域社会をつくるための観光振興であるだけでなく、市民が心身ともに健康で幸せな生活を送れるようにする地域福祉でもある。		
予算額	1. 2017 年 6 月、市営企業により 50 億元（約 7.07 億米ドル）が資本注入され、成都天府緑道建設投資有限公司が設立。 2. 2018 年 12 月、市営企業により 3 億元（約 0.42 億米ドル）が資本注入され、成都天府緑道文化旅遊発展股份有限公司が設立。		

1. 課題(現在の状況)

都市経済の急激な発展や、都市人口の急激な増加に伴い、成都では環境問題が目立ってきた。それにより新たな課題として、都市環境の改善、街の特色の醸成、ならびに地域の観光経済の発展を牽引する新たな成長エンジンの形成が浮き彫りとなった。

「天府緑道」プロジェクトは成都に美しい自然・人文環境をもたらし、市民の生活の質をさらに高め、成都を美しく住みよい公園都市へと生まれ変わらせる助けとなるであろう。

2. 目標(将来像)

2020 年までに地域間緑化道 840km、都市部緑道、コミュニティ緑道 計 2400km を建設する。

2025 年までに地域間緑化道の建設を全面的に完了。都市部緑道、コミュニティ緑道 計 8680km を建設する。

2035 年までに天府緑道の全面的な完成を目指す。



地域間緑化道計画 イメージ図

3. 取組内容(概要)

- 2017 年 6 月、先行モデルプロジェクトとして、成都天府緑道建設投資有限公司を設立。地域間緑化道のうち「錦城緑道」について投資、建設、運営などを全面的に担当している。
- 2018 年 3 月、天府緑道プロジェクトの円滑な実施、施工品質管理の強化、および緑道の施工品質の向上を目的として、『成都市天府緑道工程建設品質管理十条措置』を策定。
- 2018 年 12 月、将来的なリソースの開発と活用を目的として、成都天府緑道文化旅遊発展股份有限公司を設立。主に緑道に関する観光資源開発と観光地の管理運営を実施している。

(うまくいっていること)

- 2018 年末までに、成都市では 2607km の緑道(地域間緑化道 345km、都市部緑道 928km、コミュニティ緑道 1334km)が建設された。これによって、わずかな散策道や公園、生態区など計 1114 平方 km の「五級緑化システム」が繋がった。同範囲には、文化・スポーツ・観光施設 2191 箇所が入っている。また、各種公共サービス施設 370 箇所が設立され、「川西林盤(※成都平原及び丘陵地域の農家の敷地やその周辺にある高木、竹林、河川及びその周りをとりまく耕地などの自然環境を融合させた農村住居環境)」をはじめとした地域の伝統的な田園風景 100 箇所ので保全・維持事業をスタートさせた。40 万ムー(約 26667ha)の景観農業が形成された。
- 天府緑道は将来的に生態保護、レジャー、スポーツ、文化展示、スローモビリティ、農業景観、スポンジ都市(※浸透、保水、貯留を意識した都市の水循環を進め、水害対策、水環境対策を促進する都市構想)、緊急時避難の機能を担うものとなる。都市の「毛細血管」として、天府緑道は孤立、分散した自然や生物、文化史跡、イベント会場を有機的につなぎ、成都市のガーデンシティ建設において重要な役割を果たすものである。

4. 参考資料

先行モデルプロジェクト：都心部の「錦城緑道」



建設された緑道の様子



「錦城緑道」の様子

テーマ1：観光振興／リージョナルレポート

テーマ名	観光振興	地方政府名	洛陽市
取組名称	洛陽の文化と観光産業の融合的な発展を加速		
概要	洛陽市は重厚な文化や美しい自然に裏打ちされた、豊富な文化観光資源と商品を有している。中国国内外の観光客に愛され、昔も今も変わらぬ光を放つ「ロマンチックな国際文化観光のまち」になることを目標として、文化と観光産業の融合的な発展を加速させている。この目標実現のため、洛陽市の次のような取り組みをしている。1.高いスタート地点から、全体を見据えたデザイン。2.「古くからの観光地」から「新しい観光地」への転換を加速させる。3.入場料に頼る経済から産業経済への転換を加速させる。4.観光都市から都市観光への転換を加速させる。5.都市ブランドの積極的な向上。6.「市民のため」を理念とし、市民が観光の恩恵を体感できるようにし、「文化香る洛陽」をつくる。 しかし一方で、洛陽市は「文化観光産業の全体的な実力が弱い」、「イノベーション活力が不足している」、「資源利用が不十分」という重大な問題にも直面している。		
予算額	(現地通貨)	(US\$換算)	

1. 課題(現在の状況)

洛陽は中国の第一期「歴史文化名城」である。シルクロードの東の起点の一つであり、隋・唐大運河の中心的な都市でもあることから、重厚な文化や美しい自然に裏打ちされた、豊富な文化観光資源と商品を有している。市全体では龍門石窟など3件・6箇所の世界文化遺産のほか、省級観光リゾート区5箇所、5A級観光地5箇所、4A級観光地23箇所と、A級観光地の数は全国の地級都市(訳注:『省』と『県』の間にある、中国の二級行政区分)でもトップクラスである。博物館も69箇所、文化産業モデル産業団地・モデル基地が13箇所に加え、都市型図書館(河洛書苑)124箇所、国家無形文化遺産8件、国家余暇農業・農村観光モデル県3箇所もある。国家文化消費実験都市、全国観光規格化モデル都市、全国余暇農業・農村観光モデル市などの認定も獲得している。このように、洛陽市は文化観光資源と商品は比較的恵まれているが、文化観光産業の総合力・競争力が低い。余暇リゾート型、本格体験型といった総合的で高付加価値型の観光商品(体験型、双方向型、参加型)が少ないことから、観光客の滞在時間が短く、観光客の受入延べ人数に比べて、総合的なベネフィットを得られていない。

2. 目標(将来像)

「高級化、スマート化、グリーン化、規格化、融合化」を通じて、文化と観光産業の融合的発展を加速させ、中国の国内外観光客に愛され、「昔も今も変わらぬ光を放つ、ロマンチックな国際文化観光のまち」を目指す。「古くからの観光地」を「新しい観光地」へ、入場料に頼る経済を産業経済へ、観光都市を都市観光へと転換させ、本当の意味で「中華民族の風格漂う、国際レベルの、洛陽ならではの国際文化観光都市」をつくる。

3. 取組内容

(概要)

- 高いスタート地点から、全体を見据えたデザイン。『文化伝承イノベーション体系構築に関する指導意見』『洛陽市文化産業転換行動計画(2018-2020年)』『観光産業の転換・改善による国際文化観光都市づくりの加速に関する実施意見』『洛陽市全域観光モデル区づくり实施方案』など、文化観光産業に関する鋼領的な性格を持つ政策文書を公布し、目標・戦略・具体的なアプローチ・重要な役割や保障といった項目を明確化した。

テーマ1：観光振興／リージョナルレポート

- 「古くからの観光地」から「新しい観光地」への転換を加速させる。龍門・閼林・白馬寺など伝統的な文化観光商品を強化・改善した上で、「博物館の街」として、「隋・唐洛陽城」国家歴史文化公園、二里頭遺跡博物館など文化観光の新たな見どころづくりに力を入れている。
- 入場料に頼る経済から産業経済への転換を加速させる。文化・MICE・農業などと融合させた観光業の発展を目指すほか、観光地逸品化事業や観光地の多元化、観光の新業態の育成に力を入れており、文化観光における消費増加につなげ、文化観光産業の発展力向上を図っている。
- 観光都市から都市観光への転換を加速させる。洛陽古都文化を中心に、黄河文化観光区と伏牛山山水リゾート区を両翼とした空間をつくりながら、観光施設・観光環境の改善を継続的に実施することで、全域観光、スマート観光を発展させていく。
- プラットフォームに合ったプロモーションによる、都市ブランドの向上。各種プラットフォームにおけるマーケティング、集客力のあるニューメディアを味方につけつつ、イベントマーケティング企画や、季節ごとのマーケティング、国外プロモーションを強化し、「昔も今も変わらぬ光を放つ、ロマンチックな国際文化観光のまち」としてのブランディングを図っている。

（うまくいっていること）

- 「市民のため」を理念とし、市民が恩恵を体感できるようにする。観光業発展の恩恵として、満足感や幸福感を得られている。
 - ◆ 「観光年間チケット市民優待」事業を実施、全国の観光による市民福利のモデル事例に。
 - ◆ 観光による貧困支援を推進。観光地である栾川重渡溝は観光による村おこし・貧困支援として、全国モデル事業に選ばれた。
 - ◆ 「市・県観光地連動型優待活動」を実施、高い集客効果を得られた。
- 「文化香る洛陽」づくり。「充実した生活への高まるニーズを満たす」ことを目標に、「文化香る洛陽」づくりの改善事業に力を入れている。様々なスタイルで美しく飾られた都市型図書館については 116 箇所が完成し、「15 分歩けば読む本がある文化圏」の基礎が形成された。観光客は花見のついでに図書館に入って、本の香りと花の香りが入り交じる中で「詩と彼方」のロマンチックな気分に入れることができる。

（うまくいっていないこと）

- 文化観光産業全体の力が弱い。市全体における、文化と観光の融合は、範囲も深みもまだ不十分で、産業としての規模も小さいことから、総合力・競争力ともに低いまま、コアコンピテンシーをもって産業をリードできる高級商品に欠けている。古くからの観光地は依然として強化や改善を必要としており、新観光地についても影響力を引き上げていくことが必要。
- 文化観光産業のイノベーション力の不足。余暇リゾート型、本格体験型といった総合的で高付加価値型の観光商品（体験型、双方向型、参加型）が少ない。ハイクラスの観光テーマパーク、芸能演目や夜間観光商品、観光二次消費が不足している。
- 文化観光資源の利用が不十分。市内の歴史文化資源をどうやって観光商品としていくか、都市文明をどうやって発信・継承していくか、街の景観の改善はどうするか、遺跡の近隣に住む市民の生活改善はどうするか、どのように都市としての競争力を向上させるか、などが最重要課題として挙げられる。

テーマ1：観光振興／リージョナルレポート

テーマ名	観光振興	地方政府名	宿州市
取組名称	「観光に強い宿州」政策による「全域観光」の発展		
概要	宿州市は安徽省の最北部に位置し、江蘇省、山東省、河南省の3つの省、11の市・県と接する淮海経済圏の中核都市である。優れた立地条件やアクセス性を備えていることから、省をまたいだ広域文化観光地となるための下地があるといえる。 宿州市の観光経済指標は成長が続いており、2018年の観光客受け入れ人数は、国内観光客が延べ2600万人、国外観光客が延べ5.1万人、観光収入は総額で180億元弱となった。事業の実施、新たな観光地のランク付け、観光による貧困支援、プロモーション、計画による発展促進などの面では著しい成果があがっている。		
予算額	(現地通貨) 広義の観光収入総額 180 億元人民元	(US\$換算) 25.3 億米ドル	

1. 課題(現在の状況)

- 宿州市は淮海経済圏の中核都市であり、優れた立地条件を備えていることから、広域文化観光地となるための下地があるといえる。
- 2018年、宿州市観光収入は総額で180億元弱、国外観光客の受け入れ人数は延べ5.1万人。事業の実施、新たな観光地のランク付け、観光による貧困支援、プロモーション、計画による発展促進などの面で著しい成果をあげたことから、安徽省の文化・観光庁から高い評価を得ている。

2. 目標(将来像)

- 安徽省の観光発展大会の精神に基づき、引き続き「観光に強い宿州」づくりを促し、各種観光指標を15%程度成長させる。
- 観光に強い宿州として観光地創出・観光ルートづくり・人材育成・特色のある観光商品開発・けん引する旅行者の育成の5つを柱とする政策を実施。メイン事業+2つのエンジンからなる「一体両翼」をコンセプトにサプライヤー改革を推進、市内全域における観光の発展につなげる。
- 「第十四次五ヶ年計画」における文化・観光融合発展計画を策定。観光業におけるブランド知名度をローカルなものからグローバルへ、量的成長から質的成長による増収へと昇華させていき、省の垣根を越えた重要な広域文化観光地としての基礎を固める。

3. 取組内容

(概要)

【観光発展大会の精神の徹底】

- 『全省観光業発展大会精神の伝達・学習及び意見の徹底実施に関する報告』について、市政府常務会議、共産党委員会常務委員会によるヒアリングが完了し、採択された。
- 共産党委員会・人民代表大会・政府・政治協商会議の四大トップが出席する全市観光業発展大会を開催し、観光業の発展に向けた体制が全面的に整備された。

【「一体両翼」のコンセプトの実現】

- メインとなる重点事業の着実な実施。全市観光プロジェクトデータベースの構築を始めており、一元化された指導・管理体制のもと、省の政策支持を得られる観光プロジェクト(3～5件)の選抜を進めている。重点観光プロジェクトの推進の面では、宿州新汴河景観区における5Aレベル観光地整備計画の策定を指導している。また、符離エコツーリズム・ストリートの沿線プロジェクトの実施と企業誘致に特に全力を注ぎ、観光特色街区として省の評価認定を目指している。
- 翼の1つとなる観光分野のマーケティングの強化。淮海経済圏、大運河沿線において、多元的なコミュニケーションや相互アクションの強化を図っている。ニューメディアの寵児を宿州に招待し、実際の取材に基づく宣伝を行ってもらうなど、新たな視点や手法により宿州文化観光に新たなイメージを賦与していく。『宿州市観光市場販売促進奨励弁法』を改定し、自家用車での旅行、学びの旅などといった観光商品も対象とすることで、市場の活力を刺激する。『農村観光の発展 農村振興への助力』という成果を紹介する動画を配信し、農村観光ルートを展開する。
- もうひとつの翼として、観光の監督管理サービスの強化。マナーを守った観光を目指す「六進(※広場へ、宿泊施設へ、ホールへ、地域へ、観光地へ、校庭へ)」運動の周知を進めることで、市民に旅行における安全、マナー、出入国といった面での注意喚起をする。健全文化・観光担当部門と関連部門の統合再編により文化旅行総合取締チームを設立、連携した取締体制を確立している。また、観光安全緊急連携システムを改善し、休暇中の観光管理の運営に基準を設けている。観光施設の誠実度評価を継続し、定期的に「優良・悪質評価リスト」を発表する。

【広域文化観光地の創設】

- 現存する観光地として、国の4Aレベル認定を受けた観光地は5箇所、3Aレベルは11箇所あり、さらに世界文化遺産、世界最大(連続部分の面積)の果樹園、全国最高レベル革命観光景勝地、国家水利風景区、国家森林公园、国家湿地公園、国家ジオパークなど重要な観光地などもある。今年度に新たに4Aレベルの認定を受けた観光地は2箇所あり、また2箇所が4Aレベルの景観評価に立候補している。

(うまくいっていること)

- 『宿州市全域観光発展促進 観光に強い宿州づくりの加速に関する意見及び若干の政策』の基礎が立案されており、「一体両翼」のコンセプトに基づいて目標までの道のりと、それに付帯する奨励補助政策が細かく決められている。
- 市共産党委員会、市政府に『全域観光発展の促進 観光に強い宿州づくりの加速指導チーム』の設立を呼びかけた。ハイレベルな指導体制を確立することで、観光業の成長促進という重要課題の解決について検討した。
- 観光業の発展に向けた資金面でのサポートの強化、新たな資金調達方法の確立、文化観光プロジェクトや観光公共サービスインフラ整備の支援など、多元的に複数の角度から、より多くの業態向けの優遇政策を実施し、市の観光業発展を促した。
- 2019 年上半期における、国内からの受け入れ観光客数は延べ 1485 万人、観光収入は総額 101.6 億元を達成、上昇幅は全省平均水準を上回った。
- 碭山県国家全域観光モデル地区、新汴河 5A 級観光地など新たな観光地ができています。全省観光システムの中央テレビ 1+N プロモーションプログラムに参加したり、観光市場販売促進奨励政策を運用したりするなどし、片道 3 時間以内の観光経済圏から団体観光客の宿泊旅行を獲得した。

(うまくいっていないこと)

- 観光商品の開発がやや弱い。観光地の規模がそれほど大きくなく、コンテンツも豊富ではない。特に観光客が参加、体験できるものが不足しており、「レジャー」、「エコ」、「健康増進」、「学び」など、様々なテーマでサービスを向上させていくことが急がれる。
- 観光資源が集約化されていない。経営主体が分散しており、相互連携や補完性に欠けているため、観光の規模が小さく、収益性がやや低い。ゴールド観光ルートの開発が十分にできておらず、周辺の市場に対し、コアコンピテンシーを発揮できていない。
- 観光地のプロモーション対策の不足、訴求力不足。どの観光地も PR の多様性に欠け、他地域に赴いての宣伝が不十分である。

4. 参考資料

- ・宿州市は安徽省の最北部にあり、面積は9787平方km



あの美しい花畑を求めて世界中を巡る
風に乗って、千年の歴史と漢文化の調べを楽しむ旅へ



新汴河 国家級水利風景区



ギネス世界記録 途切れることなく広がる梨の花



漢興福地皇藏峪 中国4Aレベル観光地



宿州博物館



テーマ1：観光振興／リージョナルレポート

テーマ名	観光振興	地方政府名	臨沂市
取組名称	立地と観光資源の優位性を活かし、インバウンドツーリズムの成長をけん引		
概要	臨沂市の立地と観光資源の優位性を十分に活かして、観光業の国際化水準を高め、海外観光市場の開拓におけるプロモーションを強化し、大型旅行団の誘致に相応の奨励策をつくる。これらの取組によって、年間外国人観光客数を大幅に増加させ、臨沂市インバウンドツーリズム市場の急速且つ持続的・健全な発展を図る。		
予算額	プロジェクト再構築・改善資金 約 100 億元	約 14.5 億米ドル（US\$換算）	

1. 課題（現在の状況）

臨沂市は山東省の東南部に位置する。黄海に近く、南は江蘇省北部と接している。現在の管轄範囲は3区・9県・3開発区（うち、2つは国家級開発区）と観光リゾート区1か所から構成される。人口1179.8万人、総面積1.72万km²で、市全体面積のうち平地・山地・丘陵地帯がそれぞれ3分の1ずつを占める。人口・面積ともに山東省最大の市で、全国に4つある人口一千万以上の地級市の一つである。臨沂市は立地・交通の面で明らかな優位性を持つ。海に近く港に面しており、北京と上海、中国の中部と東部を繋ぐ線上にある中心都市で、陸海空の利便性の高い立体交通網が形成されている。臨沂市は自然環境・生態環境もよく、歴史や文化の香り漂う街であり、商業・貿易の物流も発達している。温泉資源が豊富で、人々は勤勉で素朴な気風があり、インフラや公共サービス施設もますます充実してきている。急速な発展を遂げる「大きく美しく新しい」臨沂には観光業の発展にとってしっかりした基礎が整っている。

近年、臨沂市の観光業は急速な発展を見せている。現在、市内に国家A級観光名勝地は195か所、星つきホテルは36か所、旅行代理店は101か所ある。2018年に市全体で受け入れた観光客は延べ7444.86万人で、前年同期比11.32%増、観光業による売上高は計825.8億元を達成し、前年同期比11.41%の成長を記録した。市全体の観光業における直接就業人口は10万人以上、間接就業人口は50万人以上である。臨沂市は全国でも主要な旅行先の一つとなっている。

臨沂市は海にほど近く、港に面した立地と高いアクセス性、空気の美味しい蒙山の自然、湯頭の全国A級温泉など、恵まれた自然条件を有していることから、外国人観光客を引きつけやすく、インバウンドツーリズムを発展させやすい状況にある。中でも長い歴史に彩られた文化面においては、国際的に高く評価され、強い影響力を持ち、世界各国の愛好者や研究者を引き付ける要素が多い。「書聖」王羲之、書の大家・顔真卿、著名な軍事家で思想家の諸葛亮、「算聖」と呼ばれた天文学者の劉洪といった名士は皆、臨沂生まれであるし、著名な『孫子兵法』、『孫臏兵法』の竹簡も、臨沂市の銀雀山漢墓から出土したものである。臨沂市は書道や兵学などの研究や交流、または原点をめぐる際には欠かせない国際的な聖地であり、旅行商品の改善を通じて市場におけるプロモーション力を生み出し、高めることで、インバウンドツーリズムを大いに成長させる余地がある。

2. 目標（将来像）

観光商品のレベルアップや再構築により、海外への観光プロモーションに一層力を入れ、大型旅行団の誘致に相応の奨励策をつくり、年間外国人観光客数を大幅に増加できるよう、臨沂市のインバウンドツーリズム市場の急速且つ持続的・健全な発展を図る。

3. 取組内容（概要）

- 国際的に魅力ある観光商品のさらなる創出
- 国際的な文化観光フェアを継続的实施
- 文化交流施設の継続的な改善
- 「観光+」という他産業との組み合わせによる成長を維持し、産業全体のレベル向上をけん引
- 観光インフラと公共サービス施設の水準向上
- 観光受入れにおける均一水準でよりきめ細かいサービスへ
- 市場におけるプロモーション強化の継続
- 政策サポートの強化

（うまくいっていること）

- 優れた観光プロジェクトのレベルは大幅に向上した
- インフラや公共サービス施設は絶えず充実している
- 文化観光フェアの国際化も着実に進んでいる
- 観光受入れのサービス水準が大きく向上した
- 観光プロモーションも前進している

（うまくいっていないこと）

- 国外の観光市場におけるプロモーション力は依然として不足
- 国外の観光市場におけるプロモーションを行う仕組みと観光客誘致システムが不充分

4. 参考資料

臨沂市旅遊大団隊獎勵辦法（大型旅行団獎勵法）より抜粋

- 列車の貸し切り団体：同一ダイヤの貸し切り列車に誘致したインバウンド観光客（香港、マカオ、台湾を含む）の人数が300人以上の場合は奨励金50,000元、500人以上の場合は奨励金100,000元
- 飛行機の貸し切り団体：同一フライトに誘致したインバウンド観光客（香港、マカオ、台湾を含む）100人以上（通常の旅客便でない）の場合は奨励金30,000元、10人増えるごとに3000元ずつ増額
- 一回限りの外国からの団体客（香港、マカオ、台湾を含む）20人以上50人未満の場合は奨励金100元/人、一回限りの外国からの団体客（香港、マカオ、台湾を含む）50人以上100人未満の場合は奨励金150元/人。一回限りの外国からの団体客（香港、マカオ、台湾を含む）100人以上の場合、奨励金200元/人